

(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

第6回ワークショップ会議録

日 時：平成24年1月14日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 第4分庁舎 811会議室

参加者：公募市民：13名 関係団体：10名 計：23名 傍聴者：16名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

花上課長、加藤課長補佐、渡邊係長、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

大塚職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生4名

プログラム

第1部

- ① 第5回ワークショップで出された意見
- ② ワークショップ「中間とりまとめ（素案）」について

第2部

- ③ グループワーク（中間取りまとめ（素案）について）
- ④ 意見交換

その他

- ⑤ 今後の予定など

配布資料

第6回ワークショップ 次 第

資料－1：（仮称）鎌倉地域の漁港建設にかかるワークショップ
中間取りまとめ（素案）

資料－2：第5回ワークショップでのグループワーク意見

資料－3：第5回WSでのアンケート調査結果

第1部

① 第5回ワークショップで出された意見

「第5回ワークショップで出された意見」について、事務局の（財）漁港漁場漁村技術研究所大塚職員から配布資料の「資料-2：第5回ワークショップでのグループワーク意見」により説明を行いました。

② ワークショップ「中間とりまとめ（素案）」について

「中間とりまとめ（素案）」について、事務局の産業振興課加藤課長補佐から配布資料の「資料-1（仮称）鎌倉地域の漁港建設にかかるワークショップ 中間とりまとめ（素案）」により以下のとおり説明を行いました。

事務局：「中間とりまとめ（素案）」について、その概要を簡単に説明させていただきます。資料-1をご覧ください。中間とりまとめの素案は、前回第5回のワークショップ（以下「WS」という。）でファシリテータ（以下「FT」という。）の齋藤先生から「市にどんな報告書を手渡すのか」ということで提案された内容で構成しています。目次をご覧ください。「1 はじめに」「2 鎌倉市が漁港建設問題を超えて検討すべき事項」「3 鎌倉海岸利用の包括的な将来像と漁港建設との関係」「4 漁港対策協議会答申についての意見」「5 鎌倉市への要望」の大きな5項目について、今回、「中間とりまとめ」素案を事務局で作成いたしました。この素案、叩き台ですが、あくまで、参加した市民の立場から書かれるという原則を念頭に置いて作成をしたつもりです。次に、全体の構成ですが、資料-1の「中間とりまとめ」の「本編」と、今回は綴っていませんが、巻末に「資料編」を付けることを考えています。本篇では、各項目での主だった意見を掲載し、「資料編」では、本篇を補完する意味で、これまでのWSで出された意見をすべて網羅するものを掲載してはどうかと考えました。資料編は、具体的には、毎回配布しました「WSで出された意見」の添付を考えていますが、そのまま掲載するか、もう少し項目を整理するなりして掲載した方が良いか、などについても後ほどご協議いただければと思います。次に、資料-1の本篇の内容ですが、事前にお読みいただいた方はお感じになられているかもしれませんが、各項目で書かれている内容は、今までのグループワーク（以下「GW」という。）で出された意見の羅列に過ぎない、と思われたかもしれません。実際ほとんどがそうなのですが、これは、様々な意見がある中で、WS参加者の総意なのか、一部の意見なのかによって、その書きぶりが変わってきますので、事務局からみてWS参加者から特に反対意見がなかったと思われるもの以外については、主だった意見のみだけの記載としています。この辺りの書きぶりは、この後のGWで、是非話し合っただけであればと思います。次に11ページをご覧ください。鎌倉市への要望の「5.5 より良い検討を進めるために」ですが、読み上げます。『中

間とりまとめ」に記載した意見は、今後「最終とりまとめ」として鎌倉市へ報告したいが、これらに盛り込まれた多くの懸案を具体的に検討するためには、本WSの継続が必要です。継続するWSでは、WSあるいは個別の課題を検討する分科会、鎌倉市のホームページや郵送によるアンケートなど、様々な手法を駆使してより多くの市民が参加できるようにするべきである。』と、ここについては前回いただいた意見を参考にある程度、具体的な表現で書かせていただきました。ただ、この部分については、まだどういう形で継続するか意見がまとまっていないので、参加者の皆さんが、今後このWSを継続した場合、どういう形が良いのかについても、この後のGWで、話し合っただけであればと思います。市といたしましては、平成24年度もWSが継続できるよう市の内部での調整は行っています。後ほど、「中間とりまとめ(素案)」のGWを始める前に、事務局から改めて説明いたしますが、私の説明は以上とさせていただきます。

第2部

③ グループワーク

「中間取りまとめ(素案)について」をテーマに、参加者4グループ、傍聴者2グループでGWを行いました。その後、各グループから発表がありました。各グループの発表概要は以下のとおりです。

【黄グループ】

私は私のやり方として、この資料に書き込むということだったのですが、とにかく皆さんに話していただくことを書き込みました。今から要点を説明します。うちのグループで一番問題、このWSそもそもという話からスタートしたのですが、結果として造る、造らないという話かと思ったのが、そうではないというのがわかった、ということは成果として挙げられるだろうと私は客観的に聞いていました。でも、そのスタートに鎌倉漁港対策協議会(以下「漁対協」という。)の資料が全面に出ているということはそもそも誤解を招く原因になっているのかなって。個人的にも、鎌倉のことを色々調べるとインターネットにもそういう図面が、個人のブログにも多く出ているので、やっぱり真実が何かを整理しなければいけないのかな、ということが一つあります。ただ、このWSを通して、更に成果というか、問題点というか、これから考えていかなければいけないものとして、今後のWSのあり方ですが、その話としてもいくつかのプロセスとして、一回目の資料で漁対協の経緯があって、このWSの意見をそれにプラスしていく、更にこの後、広い市民の人からの意見を踏まえてそれを全体で、市の方で判断していただくと最初に提案されたものがあつたのですが、次のステップとしてそちらに進んで行ってほしい。ただ、メンバーをどうするかだとか、テーマを何にするかだとか、それについても分科会という話が前回も出ていましたが、ただ、メンバーを広げる、という話にはすぐいかないだろうと思います。具体的なテ

ーマ設定の検討は必要なのだが、そもそもは何のテーマについていったい誰がそれについて話し合っていくのか、時間だとか期間だとかいうのが、そもそももっと大事だろうと。なぜそういう話が出てきたかという、産業の話とか漁業をどうしていくのかということで、良い鎌倉をもっと良くしていきたい、鎌倉を、例えば、良い資源を持っている鎌倉の港を使って振興していこうというのはあるが、そもそもビジョンとしてどれくらいのイメージを市が持っているのか、自分たちが持ったら良いのか、ということが共有できていないんじゃないか。そもそもそれを話し合っ、それをベースにした上での一つの手法として港がどうあるべきなのかというのが検討として挙げられるだろう。ただ、本当にそこに行くにはビジョンの話というのはとても大事だろうという話が出ました。それで、市のビジョンをいろいろなテーマ設定、まちづくりも含めてのマスタープランなどが出ていますけれど、そういう具体的なビジョンがある一方で、今回参加してみて、現場の方、特に漁業者の方にも夢がある、ビジョンがある、ただ、そのビジョン、地産地消の話なんかも出ていましたけれど、それを進めていくには課題というのがものすごく具体的に、現実的にある。長期的なビジョンというのもありますし、緊急的な処置として何をすべきかと言うのもあるし、でも、そもそもその周知と理解というのが今できていない。そこからも、緊急的にやっていかなければいけないものもあるし、本当に長期的にやっていかなければいけないものもあるし、その中で海というものをどうするか、防災というのをどうするか、産業というのをどうするか、その中で浜小屋があったり、砂浜があったり、将来的に漁業がどうなっていくのかということも含めると本当に膨大にはなるのですが、そういう一つ一つのテーマをとにかく挙げていく、共有していく、皆で周知も含めて知らせていくというのが、このWSを通してということだけではないと思うのですが、うちのグループの方たちは問題意識として持っているというのが、私はただただ書き取っていただけなのですが、そういう理解をしましたがいかがでしょうか。補足として何かあればお願いしたいのですけれど。

(補足)

内容としては今お話いただいたことで良いと思うのですが、我々が何回もこの会議をやってきて、成果としてこれに反映させておかないといけないなと思っています。具体的に言っておいた方が良いかな、時間切れになってしまうと嫌なので。全体の2から3ページの中ですね、中段で今言ったような将来ビジョンを明確にすべきではないかとか、2ページですね。3ページの中段でも、やっぱり産業振興の中で水産業・漁業をどう捉えてその地域の方たちにどう反映させていくのか、いわゆる具体的なことですね。進路が明確に示されないと理解を得られることは難しい。これは我々がまさに議論してきたことだと思います。それを受けて、10から11ページで、やっぱりWSとして市への要望という風に5.1から5.5まで書いてある中で、今言ったビジョンの部分について、WSの形態なんだかわからないですが、更に検討していかなければいけないだろう、それらを基にして、ベースにして次の話、例えば漁港の話、港の話をしていかなければいけないという部分が、全く10から11ページの部分にないの

で、これはやっぱり残しておかないといけないかなという風に思いましたので、付け加えます。

【青グループ】

まず、中身についてという議論があるのですが、このチームの中では、ここに書いてあることはどこも間違っていないし、確かにこういう議論をしてきたということで、ここに書いてあることに対しての問題はないねというのが、このテーブルの一つの結論でありました。ただ、申し訳ないですが、非常に僕もそうだなと思ったのですが、これを誰が読むのですかといった時に一人は市長であり、一人はこのWSを知らない市民の皆さんであり、最後にこの次に続くであろう、次にこのWSをやる人たち。これを読んでわからないよねって。何がわからないかって、このWSってどういう背景があって、どういう意義を持って、どういう目的があるのか、それがどこにも書いていないのでまずわからないよねっていうのがありました。したがって具体的に言えば、最初の冒頭になると思うのですが、これまでの経緯、それから中間段階ですがこのWSの目的・意義って何なんですかという部分と、あとご記憶にあるとおり、このWSも最初の一回目、二回目というのはどういう方向性で議論するのか、と相当いわば紛糾したという記憶があると思うのです。そういった議論も踏まえてこういうやり方になったのですよねということも、できれば冒頭に書き加えてほしいよね、と思ったという結論が一点です。もう一個最後になると思うのですけれど、確かに正しい議論の表現をしてあるのですが、さっき言ったように読み手にメッセージがないんじゃないの。確かに、なかなか結論を出せる状態ではないのですが、やっぱりメッセージって残したいじゃないですか、という意見がありました。それで何なのですかという話になるのですが、WSって結論を出すような場ではないと僕も思います。タイトルにあるとおり、漁港建設をするべし・止めるべしとも結論はメッセージに成り得ないのかなと僕も思うのです。一方でこれまでの議論の中の主流は、言葉というか単語で言えば、優先順位って考えた方が良くないじゃないですか、という意見はほとんど共通したと思います。その優先順位って何なのですかという部分は、一つは例えば税金、お金の使い方としてどれが優先なのですかという議論、その他ですと例えば津波対策ですとか色々な課題がこれ以外にもあるわけですが、それとの優先順位ってどう考えるのですか。あるいは一番重要なのは、確かに水産業を振興しようというのは非常に重要な課題だと思うのですが、その中でも目先本当に困っていて急いでやらなきゃいけないことって、例えば台風が来た時に砂を持って行かれるとか浜小屋が壊れるとかです。もっと急いでやらなければいけないことがあるんじゃないですかという優先順位があって、優先順位を明確にした考え方をした方が良くないではないですか、というのは是非メッセージとして残さないで次に続くWS、同じメンバーが出るかどうかわかりませんので。また、一から議論していたらそれこそ時間ばかりかかりますよね、ということではないでしょうか、というような話の展開になりました。以上です。

【橙グループ】

この班では前のグループと同様、今回の中間取りまとめについては、今まで出してきた意見ですので特に間違っている部分はない。むしろ毎回配布されるWSで出された意見、付箋をまとめた資料の方が重要なのではないかということです。今回の中間取りまとめで最も強調すべきなのは、次回以降もWSを継続させていくべきということであるのではないかということです。今回のWSに関して、漁業者と非漁業者双方にとって、情報を共有したということでも意義のあったものだということです。次回以降のWSをもっと発展させていくべきではないかという意見が多かったです。今回の継続という点では、メンバーの構成であったり、市民・漁対協との協議を含めたような報告書の提出、目的・プロセスをまず事前に明確にしていくべきという意見があります。今回の中間取りまとめについてもですが、基本計画に入る前に、市のビジョンを是非見たいということです。水産業のことは前の班でもありましたが、漁港建設だけに限らず、漁港に関する市の考え方を是非聞きたいということです。それは、参加者と市とのギャップがあることが大きいのではないかということです。今後開催されるべきWSでは、そういった漁港に対する考えですけれど、既成概念というものをもっと取っ払ったような構成、プロセスを考えていくべきではないかということです。他に補足はありますか。

(補足)

繰り返すようですけれど、今回のWSは一定の意義があったと評価できる部分が少なくないというのが我々のテーブルで出た一つの意見です。なので、だからこそこの成果をさらに発展させて次のWSに繋げていきたい、というような意見が出ていました。それから、次のWSで何をやるかなんですが、震災後に東北の沿岸部で議論がされているように、新しい海辺のあり方というものをこれまでの既成概念から離れた形で議論できる可能性があるのではないかと、今そういう兆しが日本中に生まれているんじゃないかと、それを鎌倉でもちゃんと発展させていくための次のWSのステップというものが期待できるのではないかと、そのためにも是非新しい顔ぶれも入るし、もっと広い市民の声を聴けるようなシステムを作った上で継続して、それから基本計画に入っても全然遅くないし、何もここで急ぐ必要はないんじゃないかという意見が出ていました。それから、市の方はどういうことを考えているのかということを知りたいという方もいらっしゃいました。

【緑グループ】

私どものグループでは、そもそもですね、私は市民の側なんですが、こういうWS、市民と漁業関係者の方が会って向き合って真剣に議論するという場は初めてだったと思うんです。私の方から初めに、先ほどあちらのテーブルでありましたけれど、メッセージですね、報告書の取りまとめのメッセージとして最後の11ページの5.5のところ、現時点では市民の大多数の意見としては、初めてこうやって向き合った市民の意見としては、現時点での漁港建設は無理があるんじゃないかと。理由は二つあ

って、そもそも前回も出ました茅ヶ崎の方の事例で何十億円もかかっているという事例があって、そもそも費用対効果的に無理なんじゃないかということと、それから何度もこの場でも出ています震災の結果、優先順位が変わっているんじゃないか、この二つからして無理なんじゃないかと。ただし、向き合ったことによって、多くの市民が実際に漁業者が困っていること、安全対策が緊急かつ重大であること、ということとは理解したというメッセージは是非入れてほしいという風に議論が始まりました。漁業関係者の方も踏まえて皆さんで議論して、そこまで書くというのはもう少し議論が必要なのかも知れませんが、共通して大きく二点、細かくは四点ほど書き加えていただきたいと思う事項があるという結論になりました。具体的には 11 ページの 5.5 です。「中間取りまとめで記載した意見は・・・」のところの行ですが、最後に、これから読み上げますが、「これらに盛り込まれた多くの懸案を具体的に検討するためには、WSの継続が必要である」というところの前文として、「行政側の、市役所を含めてですね、行政側の真剣な検証・検討、及びその結果の市民への提示・意見聴取が必要である。その一手段としてWSの継続も有効な手段と考える。」という文をきちんと入れてほしいということが、GWで合意しました。これの意味するところですが、真ん中のグループでも出ていましたが、これだけ色々な代替案もきちんと出ていて、それからビジョンをきちんと考えるべきだとか、優先順位、ないし緊急対策はすぐやるべきだという意見が出ているわけで、これに関しては、WSという市民なり漁業関係者任せではなく、行政が主体的に次年度に検討してほしいと、できるものはどんどんやってほしいというメッセージをきちんと込めたいということでこの一文を入れてほしいという風に合意しました。もう一つ、5.5の次に繋がるWSの検討の視点として四点入れたら良いのではないかという意見になりました。一点目は、初めの方のグループでも出ましたが、そもそも漁対協で検討された埋め立ての案は難しいのではないかと、もっと環境負荷が低く、自然との共存維持が図れるような方法を考えるべきであるという視点。それから二点目は、防災対策の優先順位が高くなっているのではないかと、あるいは防災対策をセットで考えるべきではないかという視点です。それから三点目、長い目で費用対効果を考えるべき、先ほども茅ヶ崎の事例でもありましたけれど、10年、20年、30年という長いスパンで費用対効果を考えるという視点が必要なのではないかと。最後四点目に、水産業ないし小売業、魚を食べるという意味での消費者を巻き込んだトータルの活性化ビジョンの視点が必要である。こういう四点をきちんと明記して次のWSはここから我々、少なくとも中間、今回の1から5で皆が議論した財産ですね、これを踏まえて次のWSに繋げてほしいという結論となりました。ですから、先ほどのグループでもありましたけれど、ビジョンを前提として加える、ビジョンをきちんと前提として加えるべき、それから、優先順位や緊急対策をやるべきという二点に加え、少なくとも我々が合意したこの四点を5.5の最後の結論のところ次に繋がる視点として入れていただきたいというのが具体的な要望です。以上になります。

【事務局】

ありがとうございました。傍聴者の方々の意見も聞きたいのですが、リーダーに確認しましたところ、意見には隔たりがないようです。細かい強調事項ですとか追加項目についてご意見があったようですので、事務局の方でしっかりそれを受け止めて再度整理したいと思います。今日は時間の関係上、そちらの方は割愛したいと思います。ご了承ください。

④ 意見交換

事務局：最後に意見交換に移らせていただきます。

F T：お疲れ様でした。これからグループを超えたディスカッションを試みたいと思うんですが、その前に、WSの目的、背景、位置づけが明確でない、こういうことについては誠にそのとおりですので、これについては何とか取り込んでいこうと思います。それから二つ目は、いろんな意見の羅列からもう一步踏み込んだ進んだメッセージ性を持たせてほしいというご意見でした。これについては、このあと議論していただかなければいけないと思いますが、優先順位論を盛り込むとか、もう少し具体的に、先ほど提案がありましたようなことを盛り込むことに関して、皆さんが同意されるかということですね。あるいは、もう少しこういう書き方にしてくれれば同意できるとか、そういう話をやっていかないとまた、併記になってしまいますので、その辺を検討していただきたい。それからもう一つですね。

参加者：そのことですが、まとめというのはやってないのですか。

参加者：まとめの部分は、なんとなくランダムに皆の意見が極力反映されるように拾った様な気がするのですけれど。従って、脈略がはっきりしなくて、何を言っているのかわからない部分もあるので。ただ、資料-2というのが、ものすごくわかりやすく、流れも読めて、これを見ると何のことかよくわかる。ですから、まとめの中に、資料-2というのは添付されて、一緒に見られるものにしたらいかがでしょうか。

F T：はい、わかりました。試みます。それで、もう一つは、来年度以降の活動との関係なのですが、このWSを継続して最終取りまとめを行うというのが一つの案として出ています。それともう一つは、もう少し課題を絞った議論をそろそろやろうよ、というご意見がありました。これについて、当面、今、市が来年度に向けて予算計上中のそれに相当する開催回数というのはどれくらいあるのですか。

事務局：まだ、予算はこれからですが、一応私どもの方で要望しているのは、3回程度です。今回、当初5回ということで6回までできましたが、来年度については、3回程度が開催できるぐらいの予算規模ではないかと考えております。

参加者：再来年度ということもありますか。

事務局：まだそこまでは要求しておりません。一応平成24年度まででWSの方は終了して、ある程度一定の成果を挙げていただきたいという風に考えています。

参加者：経費を削減して回数を増やすという考え方はないですか。

事務局：毎年進み具合で見直しができますので、来年度やってみて状況を見て、WSを継続した方が良いということになれば、次の年にやろうとしていたものを先送りするなりして、そういったものに予算を当てるといったことは可能かと思います。

参加者：なぜそんなことを聞いたかという、要するに6回のWSをやって、論議の内容が非常に煮詰まってきたわけです。ここからすごく大事なところになるのに、今まで6回やっていたのに、今度は3回にするというのは何でなんだろうと思うのです。むしろこれからが大事なのだから、12回にすべきなんじゃないかというのなら納得できるが、それをいきなり半分にしてしまうというのは、いったい何処にそういう根拠があるのですか。お金だけが問題なら経費を少なくして回数を増やせば良いんじゃないんですか。

参加者：それに対して意見があるのですが、おっしゃることはすごく重要なことだと思っていて、このグループでも発表しませんでしたけど、次年度どういう風なワーキングにすべきか、ということについては多少意見交換しました。その中で、例えばもう少しテーマを絞って、本当に漁港を建設するならば、ということであったり、あるいはトータルな水産業のビジョンであったり、きちんとテーマを設定して、それぞれに相応しい人とそれぞれに相応しい回数、それから一番重要なものが、そこで議論する為に「さあ集まって議論してください」ではなくて、例えば行政側が「漁港を造るとする」という形式だったらこれくらいかかる」とか「水産業の道の駅みたいなものを、魚を直売するようなところを造るとこれくらいの費用がかかるが、これくらいの波及効果がある」ですとか、ある程度の材料をテーマに応じてきちんと用意してあげて、それについて意見を戦わせるというやり方をしないと、いたずらに回数だけ重ねても、なかなか良い議論はできないんじゃないかという話がありました。ですから、そこは是非真剣に考えていただきたい、ということが一点です。あと、もう一点繰り返しになりますが、FTから提案があったように、この中間取りまとめでいうと、おそらく結論の所にメッセージめいたものを入れるかどうかという案は非常に重要なところだと思うんですね。いずれにしても次回に繋がるWSの出発点になるわけですから。なので、繰り返しになりますが、我々のグループは賛成の方も反対の方もいて、でも、なおかつさっきの四点は盛り込んでも良いんじゃないという結論になったんですね。ですから、そこについては他のグループの皆さんも「その四点なら入れて良いね」ですとか、いや優先順位の話であったり、ビジョンを作るといこともちゃんと明記すべきかどうかという、合計六点ですよ。その六点について、入れるか入れないかというのを最後の20分ぐらいの議論にした方が良いのではないかと。WSの次回の形式は、できれば市の方できちんという風にやりますとまとめていただいて、また皆さんに何かしらの形で意見をもらうという風にした方が良いのではないかと思います。

F T : そうしますと、あと一度、3月17日に、もう一回会合しようということは予定されているのですが、その日とその時間の使い方ですが、それまでの間に、今日の話で議論したとして、それまでの間に中間とりまとめをどうするかという問題を他の方法で、いろいろ意見交換した上で、それはそれで決着させる。3月17日というのは、次年度以降どうするかということについて議論するという時間の使い方によろしいですか。(拍手) わかりました。もしご異論がなければ、3月17日は、その次以降どうするかということについて時間を使うということにいたしたいと思います。そうしますと、時間もありませんので、少し議論したいと思いますが、先ほど、WSの報告書のメッセージをどうするかということについて、優先順位論というのがありました。優先順位とはいろんな意味があるわけですが、例えば、造る・造らない以前に、今、既に困っておられる漁業者がいるわけなので、それについてはどうするかという話は早く始めなければいけないんじゃないか、というのも含め、優先順位論というのはあり得る。それに加えて、先ほどご意見がありましたけれど、今後できるだけ環境負荷の少ない対策というのを検討すべきではないのか、あるいは防災的なビジョンをきちんと示すべきだろう、その中には、新しい海辺の住まい方をどうするかという話についても検討が必要であろうと、そういう考え方もあります。それから、長期的な観点から費用対効果をちゃんとみてくるという話でした。それから、水産業には魚商さんも含めた第一次産業、第二次産業、第三次産業のビジョンについても検討すべきだというメッセージを残してほしいということでしたが、このことについて、もっとこういうことも良いというご意見はありませんか。

参加者 : 一件だけ、ちょっと違和感があったので言わせていただきますが、掘り込み式の漁港に関しては、環境負荷が大きいののでやめるべきだということを書き記すべきだということだったですね。いや、埋め立て式の漁港はということでしたね。緊急避難等のことは別として、他の議論というのは非常にこのWSを続けてくる中で、単に漁港の問題ではなくて、水産業の問題であったり、鎌倉全体の産業の問題であったりということを書き記さなければいけないという風になってきて、そのことが、次からのWSのテーマになるだろうという時に、今回の中間報告であまり具体的に埋め立て式の港は駄目だよという非常に具体的な結論を出すのはちょっと違和感があるんですね。ちょっとレベルが違うというのかな、視点が違う。そういう個別具体的な、例えばコンクリートの護岸堤は嫌だよ、というようなことを中間報告の段階では、僕は盛り込まなくても良いんじゃないかと思うんです。その一点があったために、何か非常に賛成か反対かみたいな議論でものが進んでいくようなイメージを受けてしまう。そうではなくて、もっともっと広い視野でこの問題を考えていこうということが、僕が聞いていると非常に前進だったと、一番の前進であったということだから、その一点だけはちょっと譲ってほしいなという気がしました。もう一つ言うと、具体的な計画について環境負荷に考慮するというような一文だったら構わないですよ。

参加者：その点については、このグループにおいては建設にある程度賛成だったり、前向きの方についても、やはり最初の漁対協の埋め立て案って逆に違和感があったよねということで、逆にそれを入れても良いんじゃないかという結論になったので、もちろん漁師の方とか他のグループのご意見で、そこまでは書きぶりとしては厳しすぎるから、環境負荷を考慮したとか環境負荷が低いというぐらゐの表現に留めた方が良いという、他のグループの方もそういう意見であればそれはそうなのかなと思いますけれど。

参加者：先ほどこのグループから発表させていただいたのですが、ちょっと補足をします。この次というか、今日で一応6回目のWSで一つの区切りが付くという風に認識して議論をしたわけですが、この次のWSというのが単純に今日の延長線上、このメンバーのままでいくのか、それとも、これは行政・当局の方と相談しなければいけないのですが、もう一回、第2次WSとしてメンバーの公募からやるのか。この形式というのは、私どもまだ明解な答えを持っていないし、今後のいろいろな検討課題だと思う。私どものグループで先ほど発表された方が、メッセージが必要であろうと申し上げたことは、少なくとも昨年9月に皆さんと初めてこの場所でお目にかかって、それから本日第6回目、延べ300人ぐらいになっています。傍聴の方も含めてですけど。そうすると、それじゃ私どもが何のためここに集ったのか、何のために議論したのか、何のために激論・口論したのかということは何らかのマイルストーンというのか、鎌倉市の行政の記録なり、鎌倉市民の活動と言って良いかもしれません。これを何かしらの形で次のステップに残すべきであろう、というのが私自身はそのように強く思います。そういう前提に立って、やっぱりメッセージ性と言いますか、次に9月、10月にやってみたいなそもそも論や入り口の議論というのは時間の無駄であり、徒労に終わることだと思います。従いまして、次のWSがどのような形になるにせよ、やはり今回の私どもが延べ300人ぐらゐかけたという半年弱の取り組みのステップを踏んで、次に進んでいってほしいというメッセージを皆さんいかがでしょうか。皆様のご心情としてそのようにお持ちではないのでしょうか。

そのために、やはりメッセージ性というものがあゐる程度、メッセージという言い方が正しいかどうかわかりませんが、産業振興をどうするというお話もありました。地元の鮮魚店さんとの商権の関係もあるという意見もありました。たまたまですけど、東北の震災が起こった後、鎌倉市の津波が14mを越えるというようなことで、八幡宮まで水に浸かりそうだなみたいな話もあります。それから文化遺産の話もありますので、文化遺産や環境保全というキーワードもありますけれど、そういうところに関してメッセージをきちんと残して次に繋いで、決して私どもがこの6か月、300人集ったのを無駄にしてほしくないという意見で、次はどのような形、「単純なる延長、あと3回やれば良いか」という今の話には私には違和感がありました。それが来年度の上半期に設定されるのか、下半期に設定されるのか、というのは行政側のご準備の話もおありでしょうから、それから市議

会の議決案件になるはずですから、そういうことになりますと、財布が付いてこないと何もできませんので、そういうことがあろうかと思えますけれど。どうなっても、この6か月間、これは無駄な成果ではないようにしておきたいというのが意見でございます。

F T：そうしましたら、先ほど出ていたようなことをメッセージとして書き加えるということについては、皆さんご同意していただけますか。よろしいですか。

それでは、それを踏まえて素案、修正案を作成してきますが、それ以外にも修正の方向について、もしも意見があればいろいろな方法でお伝えいただければと思います。3月17日は、そういう意味では次年度以降どうするかという議論をしたいと思えますので、もし事前にお考えがあるようでしたらメールでご意見をいただいても結構ですので、できるだけ効率的に時間を使いたいと思えますのでよろしくお願いします。市としての覚悟をお尋ねしたい訳ですけど、3月17日に、やはり、次年度もっと回数を増やして、あるいは、メンバーを入れ替えたりなどして本格的な議論、つまり、ここまできたことを踏まえたさらに先の具体的な話、いろいろなやり方があると思えますが、それを是非やるべきである、とこのWSが合意した場合、市としてはどのように対応可能とお考えですか。先ほど、1回にかかるコストを減らして回数を増やすこともできるのではないかと、ということがありましたけれど。

事務局：先ほどの説明で、予算を取って、3回ぐらいと申し上げましたが、やり方と言いますか、お金をかけないでも、皆さんが来て意見を聞くという時間、あと会場は取れますから、それは何とか市の方でも工夫をして必要な回数なるべく増やしてやらせていただきたいと思えます。それから、3月17日というのは今日初めて皆さんにご提案してしまったのですが、一応もう一回中間取りまとめをした後に必要なんじゃないかなということで、事務局の方で3月17日を候補日にいたしました。先ほど斉藤先生から言っていたのですが、その日であれば、土曜日であります、この時間にこの会場を確保しておりますので、もう一回ご案内をしたいと思えます。3月17日は大丈夫でしょうか。今日来ていらっしゃる方が全員ではないのですが、よろしいでしょうか。あと2か月ぐらい先ですけど一応3月17日ということで進めさせていただきたいと思えます。今日いただいた意見、中間取りまとめ、1回ないし2回ぐらいになるかもしれませんが、皆さんとのキャッチボールということをやって、それを持って3月17日、一応最終的に取りまとめさせていただきたいと思えますのでよろしくお願いします。

参加者：確認させていただきたいのですが、今後のWSですが、今の各グループの発表の中で優先順位、漁港の計画を考える以前に考えなければいけないことがあるんじゃないか、という優先順位が出ました。例えば、漁業の将来像、鎌倉の漁業をどう持っていくのかというしっかりとしたビジョンがないと漁港の話にはいけないよ、というのもいくつかのグループから出ていましたし、それから、浜辺をどうするか、防災も含めて自然環境の保護も含めてどういう浜辺を作っていくの

か、そういう話があったからこそ、漁港の計画になるんだという話がありました。今後のWSというのは、出ている意見のいくつか、少なくともいくつかは今までの形ではなくて、例えば鎌倉の漁業のビジョンを考えるWSとか、それから鎌倉の浜辺の将来を考えるWSという形に、今までの議論、漁港をどうしようではなくて、それ以前の問題に立ち返ったWSを来年度以降は開いていきたいという意見だったと思うのですけれど、そういう理解でよろしいのでしょうか。

F T：それを3月17日にやりたいと思います。

参加者：ただ、皆さん、17日に本当に集まる意義があるのかとか、本当に集まって良いのかとか、意味があるのかと思っているポイントだと思うんです。ですから、17日に集まって、「次回からどうしますか、皆さん考えてください」ではなく、これだけ意見が出たので、ある程度今みたいにそもそものところから話すとか分科会形式にして、しかるべき人を集める、集め方も変えるなど、ある程度2か月あるので具体案は作った方が良く思うんです。それに基づいてこれで進めるかどうかという風にした方が効率的な時間になると思うので、その辺の準備を是非お願いしたいということと、合わせてくどういようですけれど、そういうことも含めて最後にもう一度言いたいことは、5.5の「より良い検討を進めるために」WSありきではなくて、行政側がこれだけ出たいろいろな代替案ですとか、今後の進め方の意見に対して、それなりに誠意を持って真剣にまとめていただきたい。そこは、文書にも書いていただきたいし、これからは是非進めてほしいなと思う点ですね。よろしくをお願いします。

参加者：市の方で、全体像があってこのWSはここ、というような、市でどのように位置づけているのか明確にしてもらえますか、次は。

参加者：例えば来年度は市の方でどのようなWSを開催するかなど。

終わりに

事務局：今日は時間を少し超過しましたが、白熱した議論を展開していただきましてありがとうございました。当初今回のWSで終了する予定でしたが、3月17日に第7回のWSを開催することが決定しました。第7回WSでは次年度以降のWSの進め方について議論するということになりましたのでよろしくお願いします。これで本日の第6回WSを終了させていただきます。